

この春（令和2年度）の始業式は、放送によるものでしたが、校長の話として、「こんな時だからこそ哲学しよう」という話をしました。哲学するというのは、今、この現象をしっかりと考えてみようということです。日本中が、世界中が同じ危機に瀕しています。この状況の中で、今自分が何を考えるか、大人たちは何を考えるのか、世界の人々は何を考えているのか。またこれまで同じような経験をした人たちは何を考えたのか。そこには正解はありません。

みんな同じ条件の中で、考えることができます。厳しい状況だからこそ、この現実をきちんと見つめ、考えていきましょう。

・この時だからこそお勧めする一冊

○校長のお勧め 「夜と霧」(ヴィクトール・E・フランクル みすず書房)

○今井先生のお勧め 「分析」の危機にある今、読みたい本

○佐賀先生のお勧め 「銃・病原菌・鉄(上・下)」(ジャレド・ダイヤモンド/草思社)

○田並先生のお勧め 「ガリバー旅行記」を知っていますか？

○司書のお勧め 「池上彰の教養のススメ 東京工業大学リベラルアーツセンター篇」(池上彰 日経BP社)

○伊藤先生のお勧め 「詩の礫」(和合亮一 徳間書房) 「想像ラジオ」(いとうせいこう 河出書房新社)

○市岡先生のお勧め 「蜂蜜と遠雷」 恩田陸 (幻冬舎)

○